

今年のO-forumのメインテーマは「普及」。オリエンテリング普及の可能性を感じさせる事例報告が相次ぐとともに、「技術」のセッションも好評だった

全日本大会前日の3月29日(土)、万博公園も近い大阪・服部緑地最寄りの駅ビルで2008年のO-forumが開催された。このO-forumは全日本大会の前日に行なわれていた全国協議会を発展させたもので、オリエンテリング界の最新の話題を取り上げたり、それについて意見交換をするオリエンティアの集いの場となっている。

今年は二部構成で、第一部では、セミナーとして、「読図講習会を開こう」(講師:村越真)、「全日本直前対策」(講師:松澤俊行)の2つの話題提供が、また第二部では、最近注目を集める普及事例3つの紹介と、それについての討議が行なわれた。

社会への貢献:読図講習会

第一部の「読図講習会を開こう」では、最近4年間の講師(村越)の経験から、登山者を対象にした読図講習会の概要とその意義が紹介された。

ナビゲーションや読図のスキルはオリエンティアが持っている知的資産であり、登山者から見たら「ファンタジスタ」にも相当するスキルである。これらを登山者等に提供することで、アウトドアの安全が向上することと同時にオリエンテリングの普及につながることで、なにより参加者に高い支持を受けている旨の報告がなされた。

30人以上の参加者が熱心に受講し、そのうち半数以上の方が講習会実施のための資料を購入するなど、普及に対する熱意が感じられた。

全日本対策講習

確かな技術は発展の礎

もう一つの講習が「全日本対策読図講習」(松澤講師)であった。講師が心掛けたのは以下の2点であった。

- ・翌日の全日本大会を走る上で役に立つ情報の提供
- ・全日本大会以降も活かせる読図練習方法の紹介

旧マップ「箕面」を用いて、講師が対策コース図を組み、教材として配布した。受講者は、そのコース図を用いて、

- ・スタート1分前の行動をイメージした後、時間制限を以てのプランニング
- ・複数ルートを読み取り、それぞれのルートの特徴を列挙

といった課題に取り組んだ。取り組みを通じ、各人がトレインやレースを取り巻く環境、そして自分自身の癖などに対する理解を深めていった。

講習後のアンケートには「実戦的で有効な読図講習だった」という感想が見られた。また、会場で講師に対して「対策コース図に示された課題が適切だった」と言ってくださる受講者の方もいた。

受講者の数は12名であった。より多くの愛好者・競技者に聴いていただきたいかったが、お互いの顔が見える規模だったことが良い方向に作用した側面もあったと思える。ただし、若手の姿があまり見られなかったことに対しては、講師・受講者ともに「寂しい」という感想が持たれたようである。

各地の地域クラブが、有望な若手競技者をこうした講習会に派遣する(参加費はクラブ側で負担する)などすれば、講習会そのものとOL界の発展につながるのではないと思われる。地域クラブ関係者の方にはご一考願いたい。

広がる、多様な普及方策

第二部では、1)ポーカーオリエンテリング、など遊び的要素を取り入れて普及活動を図っている事例が愛媛県の宮内氏より、2)第一部で紹介した読図講習会を新潟県三条市でおこない、募集定員の倍の応募者があり、急遽3ヶ月後にもう一度講習を行なう必要が出た事例を、三条OLCの藤島氏が、3)アウトドアアスリートを引きつけている拡大版スコアオリエンテリングであるロゲイニングの紹介を高橋善徳氏がおこなった。

いずれの事例も、対象を絞ってそのニーズを明確にした上で、それに対応したオリエンテリングのメリットを生かした活動である。今後の発展が期待される。最近オリエンテリングの「絶滅危惧」がささやかれる中、このような活動が各地で行なわれているこ

とに勇気づけられた。こうした事例と情報を交換していけば、オリエンテリングの普及・発展の可能性は決して低くないと感じさせる話題提供であった。

(村越 真 / 松澤俊行)



レクオリエンテリングの概要を発表する宮内氏(愛媛県協会)



「オリエンテリングをやらせようという『下心』を持つより、まずは社会貢献」という三条OLCの藤島氏。



アウトドアアスリートを魅了する奥武蔵ロゲイニングについて語るTEAM阿闍梨の高橋善徳氏。こうした活動を通してオリエンテリングをするアウトドアアスリートは決して多くないが、オリエンテリングの知名度と、それに対するアウトドア界における評価は確実に高まっている。